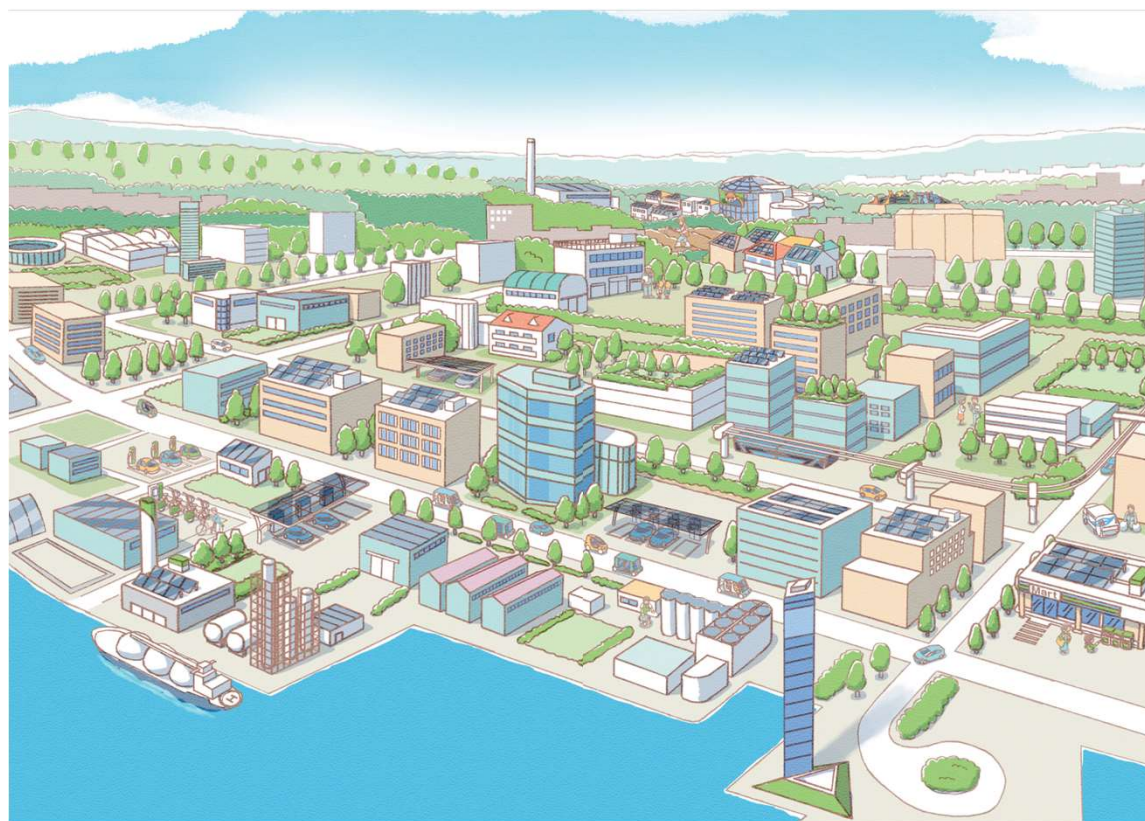


令和5年度 大学連絡会議 ～市域の脱炭素化への取組み促進について～



令和5年10月27日
千葉市

- 1 「千葉市基本計画」との関連
- 2 脱炭素化への背景
- 3 地球温暖化対策実行計画のポイント
- 4 地球温暖化対策実行計画の目標
- 5 脱炭素先行地域事業
- 6 脱炭素化に向けた大学との連携
- 7 これまでの取組み事例
- 8 大学（生）とともに進めていきたいこと

1 「千葉市基本計画」との関連



4つの戦略的視点

戦略1

100年先に引き継ぐ
持続可能なまちづくり

戦略2

ゆとりを生み・活かす
創造的なまちづくり

戦略3

世界とつながる多様性を
活かしたインクルーシブな
まちづくり

戦略4

都市機能の集積を活かした
地域経済・社会の活性化

戦略1

「縄文から受け継ぐ「自然と共生する」精神を活かした、SDGs達成に向けた取組みの推進」

「みんなの力を活かした災害に強いまちづくり」

1 「千葉市基本計画」との関連

政策 1 脱炭素化などの地球環境保全を進め、
持続可能な社会を創る

【施策 1】 地球温暖化対策の推進



千葉市地球温暖化対策実行計画
2023年3月策定（計画期間2023年～2030年）

- ・温暖化対策は自然と共生する精神や、災害に強いまちづくりを目指して
いくために、市民全体が一丸となって取り組む問題だと考えている。

2 脱炭素化への背景

- 地球温暖化が原因とされる猛暑、豪雨などの気候変動は、もはや**気候危機**！

千葉市でも2019年10月大雨などにより甚大な被害が生じました

2019年台風15号・19号、10月の大雨による市内での被害→



- 2020年 カーボンニュートラルを目指すことを宣言（国）
- 2020年11月 「千葉市気候危機行動宣言」を公表（市）
→ 2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す
- 2021年 地球温暖化対策計画を閣議決定（国）
※2030年度目標を温室効果ガス排出量46%削減（2013年度比）とする
- 2023年3月 「千葉市地球温暖化対策実行計画」を策定（市）
→ 市域における温室効果ガス排出量の削減目標を設定

3 地球温暖化対策実行計画のポイント



○千葉市が持続可能な都市として発展し続けるためには、本市の魅力を脱炭素の視点から磨き上げる必要があります、市民、事業者、行政等が意識を共有し、具体的な取組みを進める必要がある。

○本計画の策定にあたり、多様な主体が連携し脱炭素化を持続可能なものとするためには、社会課題や経済活動との関連性が極めて重要であることから、「**環境とレジリエンス向上の同時実現**」と「**環境と経済の好循環**」という2つの視点を重視した。

① 脱炭素社会に向けた取組みを、都市基盤の根幹をなすレジリエンスの強化にもつなげる必要がある。

環境とレジリエンス向上の同時実現

② 脱炭素の取組みを持続可能にしていくためには、我慢するもの・成長を妨げるものではなく、経済と両立するもの、さらには経済活性化のチャンスと認識する必要がある。

環境と経済の好循環

4 地球温暖化対策実行計画の目標

◆業務・家庭・運輸部門における目標

2050年度のカーボンニュートラルを達成するためには、少なくとも2030年度時点で2013年度比**48%(▲246万t-CO₂)の温室効果ガス削減**が必要。



目標達成に向けては…

あらゆる主体の意識共有と一体感が重要

市民

大学等

事業者

N P O

行政

5 脱炭素先行地域事業



こうした取組みを進めていくうえで、市域の脱炭素化を先導する事業として、

2022年11月 千葉市の計画提案が「脱炭素先行地域」に選定

- ・環境省が、地域脱炭素ロードマップに基づき、脱炭素先行地域を認定する。
- ・これまでに全国で83市町村の62提案が選定されている。
- ・2030年度までに対象エリア内で先行して脱炭素化を進めることで、
地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させる取組み



他地域へのモデル・模範となるべく、官民連携しながら事業を着実に実施

6 脱炭素化に向けた大学との連携

千葉市が大学と連携する意義

脱炭素化における他主体への環境意識の向上、行動変容の促進に係るモデル、模範として、これからの社会を担う人材の宝庫である大学や大学生との連携は重要な要素となる。

千葉市

市域の脱炭素化を率先する役割
多業種の企業・団体との連携
行政ならではの支援・サポート

大学

これからの社会を担う人材の宝庫
教育機関としての機能
研究機関としての機能

大学と千葉市が連携した脱炭素アクションを

あらゆる主体に発信し、行動変容を促進

7 これまでの取組み事例



○ 千葉市×大学×学生

① 学業を通じた人材育成と意識醸成

例：「環境マネジメントシステム実習」（インターンシッププログラム）の受入→単位の取得

② 環境教育教材の作成による小中学生への啓発

例：千葉市地球温暖化対策地域協議会次世代分科会として参画

○ 千葉市×大学×中小企業

③ 産学共同研究による新事業の創出

例：太陽光関連の産学共同研究事業の実施（市が補助金交付で支援）

○ 大学独自の取り組み

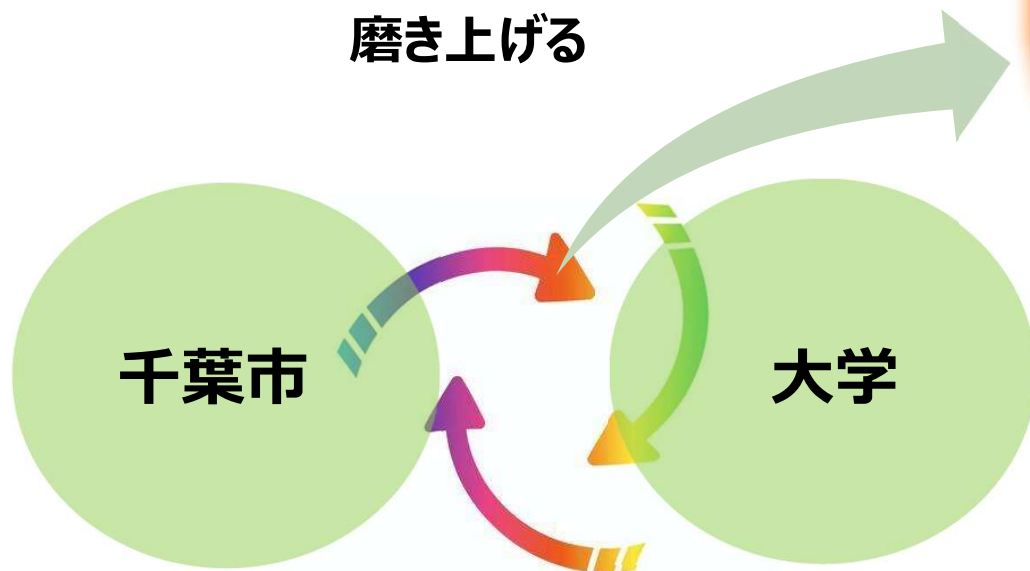
④ 大学施設の脱炭素化への取り組み

例：学内照明のLED化、ソーラーパネルの設置等

8 大学（生）とともに進めていきたいこと

めざす姿

千葉市と大学各々のリソースを
連携・融合することで、脱炭素の視点から、
千葉市の魅力と大学のブランド力を
磨き上げる



「行きたい・住みたい・
安心できる千葉市」の実現

人材の誘致、育成、起業に
繋がる呼び水になる

8 大学（生）とともに進めていきたいこと

① 再エネ電力導入に向けた率先的な取組

本市では、2030年度までに全市有施設（751か所）の電力消費に伴う脱炭素化の実現を目指している。（**PPA、再エネ由来電力メニューへの切替、証書の購入**）

- ・各大学へも同様な取組みの促進
- ・アドバイスなどで積極的に支援

< 導入促進イメージ >

1-1 アドバイザーの派遣（R6.1から脱炭素アドバイザー制度開始予定）

（太陽光発電設備の導入や再エネ電力の購入等についてアドバイス）

1-2 国への補助金申請のサポート



8 大学（生）とともに進めていきたいこと

② 多様な主体と学業を通じた環境意識の向上

例：環境分野に特化した単位科目の新設

自治体・民間団体・企業等への派遣、企業等から招聘した講師の講座受講、公開講座の実施等をカリキュラムとし、単位として認定する。



千葉市：環境分野におけるフィールドを提供
(受け入れ職場候補：3Rや省エネ、熱中症対策等)

大 学：派遣する学生確保に協力

8 大学（生）とともに進めていきたいこと

③ 学生のアイデアを活かした脱炭素の取組推進

令和6年度 大学生を対象にした脱炭素事業提案コンテストを開催予定

千葉市：脱炭素施策の企画提案について、実施に向けた伴走を実施

大 学：カリキュラム等の一環として位置づけ、コンテストの周知、参加への促し

＜R6開始イメージ＞

学生



脱炭素施策を
企画提案



審査



提案内容
採用



内容精査



予算化
・実施

- ＜企画案一例＞
- ・脱炭素行動を促す啓発ナッジイベント企画
 - ・CO2削減技術の研究

④ 産学官連携による環境ビジネスの加速化

（大学発ベンチャーや、産学共同・技術提供など中小企業とのさらなる連携等）

市の支援策

- ・事業化の支援 ※ベンチャー・カップCHIBA、創業支援、経営相談
- ・企業と大学のマッチング ※産学合同シーズ交流会
- ・研究開発や試作品製作などの費用の補助 ※産学共同促進事業
- ・早期商品化支援のため商品改良費を助成 ※新製品等開発支援



※ベンチャー・カップCHIBA 授賞式